

## 第5回景気ウォッチャー調査研究会 議事概要

- 1 日時：令和7年10月22日（水）12：00～13：00
- 2 場所：中央合同庁舎8号館 特別大会議室（ウェブ会議システムを併用）
- 3 出席者
  - （1）委員（座長以外は五十音順）  
宅森昭吉座長、岩下真理委員、鈴木将之委員、土屋隆裕委員、  
広田茂委員、前田和馬委員、大和香織委員
  - （2）オブザーバー  
岩田賢 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 副主任研究員
  - （3）内閣府  
吉岡秀弥政策統括官、茂呂賢吾官房審議官、岡野武司参事官、  
菊地康之参事官補佐、坂口博紀参事官補佐

### 4 議事概要

「景気ウォッチャー調査研究会 中間提言（案）」について議論がなされ、提言内容についておおむね了承された。その上で、本日の議論を受けた提言の修正については、座長に一任された。

委員からの主な意見は以下のとおり。

#### ○中間提言案全体について

- ・全体として網羅的で本研究会におけるこれまでの議論がまとまっている内容となっていると思う。
- ・景気ウォッチャー調査は、ウォッチャーの方々の献身的な協力や貢献があっこそ成り立ってきた統計である。その点に言及し、ウォッチャーの方々の高いモチベーションを維持する重要性に言及してもよいのではないか。

#### ○ウォッチャーの業種区分・基準構成比の見直しについて

- ・今回のような経済構造の変化に応じた基準構成比の見直しなど、経済統計として当然やるべきことを景気ウォッチャー調査もきちんとやっているということを、統計の専門家以外の方にも広く理解してもらうことが説明責任という点でも重要。
- ・日本にはサービス消費を捉えられる速報性のある統計が少ないが、景気ウォッチャー調査はコメント等でサービス消費を捉えられる。ECやオンライン決

済の発展など最新の変化を捕捉すると同時に、沖縄や農林水産業など地域別・業種別で小さいサンプルの充実にもバランスよく取り組んでほしい。

- ・経済構造が変わっていく中で、新たな業種の取込は必要である一方、スナックなど従来と変わっていない部分も経済には間違いなくあるので、現状のウォッチャーの方々の重要なコメントも十分活用できるようにすることも大事だと思う。
- ・オンライン消費のラストワンマイルを届ける物流の方々にも、ウォッチャーの委嘱を働きかけることが重要と考える。
- ・ECやオンライン決済サービスのあるべきウエイトなど、試行調査を行うにあたっての具体的な設計についても、今後議論していきたい。

#### ○サンプルサイズ・試行調査について

- ・試行調査を行う意味付けを記述しておいた方が、提言を初めて読む読者にも分かりやすいのではないか。
- ・サンプルサイズを抜本的に拡充する意義は、景気ウォッチャー調査の特長である地域経済に特有の動きをこの調査でしっかりと説明できるようにすること。サンプルサイズの抜本的な拡充を期待したい。
- ・サンプルサイズ、網羅性、信頼できるウォッチャーの確保は、統計の信頼性を保つ上で非常に重要。SNSや口コミなども発達しているが、景気ウォッチャー調査は、コメントを丁寧にクリーニングしている、良質な統計である。
- ・ウォッチャー確保に奇策はなく、地道な現場の方々の努力が大事。ウォッチャーの表彰や我々エコノミストによる景気ウォッチャー調査の良さの周知など、ウォッチャー確保の取組を工夫していただくとともに、我々も貢献していきたい。
- ・景気ウォッチャー調査は、キーワードごとにDIを集計できる。新たにウォッチャーを確保する際は、そうした活用事例を伝えていくことも必要。

#### ○今後検討すべきその他の課題

- ・パネルデータは、因果関係が明らかにできるというメリットに加え、景気ウォッチャー調査の検証にも使えるので、是非活用してほしい。
- ・ウォッチャーの選定について、人流変化の影響や地域の環境変化への考慮等について言及している箇所については、「1.ウォッチャーの業種区分・基準構成比の見直し」に移す整理もできるのではないか。

(以上)